富士市のごみを考える会通信2020年秋号

発行：NPO 法人富士市のごみを考える会　2020 年　秋号
理事長　：　小川　浩
事務所　：　富士市大淵 27 番地の 6(小野宅)
TEL fax：　0545-35-2439　mail：fujigomizero`me.com

- 10 月 4 日午前 10 時より、富士市と青葉台ごみ委員会大淵連合会で協議してきた「新環境クリーンセンター循環啓発棟」が無事オープンしました。
　ごみ焼却炉の工場棟はすでに稼働しておりましたが、併設の循環啓発棟：余熱利用施設「ふじかぐやの湯」と環境学習啓発施設「ふじさんエコトピア」がオープンしました。
- 13 時からは、オープニングイベントが開催されました。6団体がブースを構え、盛況でした。
- 正面にコアレックス信栄製紙さんが、ふじさんエコトピアのオープンを祝い、トイレットペーパーの富士山を作ってくれました。青葉台地区ごみマイスターの皆様が、市民が持ってきてくれたその他の紙に対し、トイレットペーパーを渡しました。

- 13:30～は、富士市のごみを考える会主催ふじさんエコトピアオープニング基調講演「海のごみ、プラスチックごみと私たちの暮らし」当会理事長小川浩常葉大学名誉教授による講演を行いました。
　プラスチックのゴミは、私たちが毎日使っているレジ袋やペットボトルなどがポイ捨てや大雨によって陸上のごみが海に流出したものです。
　それらが細かくマイクロプラスチックになったものを魚が食べ、その魚を通し回り回って私たちの体を汚染しています。人間の便に交じるマイクロプラスチックを検査したところ、検査したすべての人の便からマイクロプラスチックが検出されたそうです。今私たちの暮らしを見直す時です。　参加者は、会員を含め 42 名、リモート参加者 3 名でした。

- 小川先生の講演後、当会の時田理事による「ごみの話題あれこれ」として「子の浦ビーチクリーンプロジェクト」紹介しました。田子の浦海岸に打ち上げられたものすごい量のごみを拾っています。ごみは富士市のまちなか

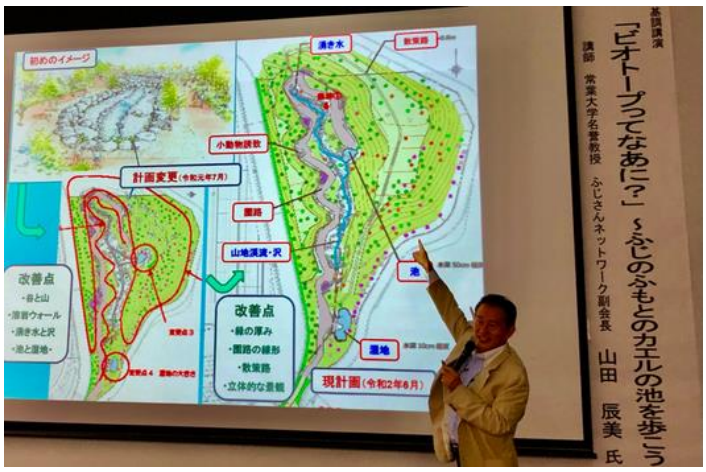
から流れ出したものです。皆で拾っていくことも必要ですし、ごみを出さない生活を考えていくことも必要です。次回ごみ拾いは 10 月 31 日とのこと、時田氏が窓口です。

- 講演会に先だって、「ふじさんとごみをわたし part4～海のごみはどこから？」富士市のごみを考える会オリジナル紙芝居を行いました。かわいらしい絵で、NHKのニュースに取り上げられました。

- また、各団体にブースが割り振られたので、そこに、当会のアーティスト梅原まんなさんに廃棄物アート「ゴジラきんさんぎんさん」と以前からあった「今のごみ・昔のごみ」紙パックの遊具を作ってもらい展示しました。廃棄物は皆で持ち寄りました。

- 続いて、10 月 18 日には、オープニング基調講演第 2 弾として山田辰美先生「ビオトープってなあに？」を 10 月 18 日ふじさんエコトピアでおこないました。参加者は会員含め 46 名でした。

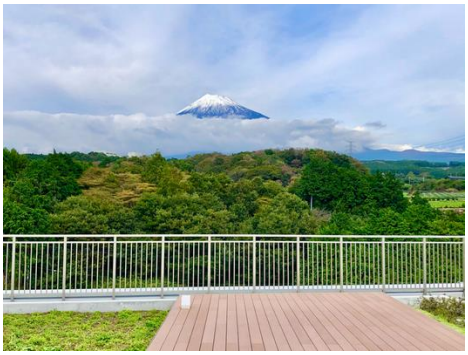
新環境クリーンセンター森林創造ゾーンビオトープの監修に際し、大変なご苦労がありました。
左上の街中公園のような図が市が最初に示した設計図で、これを山田先生に見せたところ、これはビオトープではない！□と怒った山田辰美先生が、右の設計図にこぎつけるまで大変でした。ありがとうございました。



小学校 1 年生の子どもたちが、一番前の席で、熱心に大学教授のお話を聞いて、質問に答えている様には驚きました。この周辺にいて環境アセスメントから保護していたモリアオガエルやオオタカのお話です。

- 続いて、出来立てのビオトープを山田先生と一緒に歩きました。やっと造形ができたところ、全てがこれからですね
　これからみんなで、力を合わせて、ビオトープや生ゴミ堆肥の畑を考えていきたいですね。参加してくれてた若い女性が「ホタルの会」作ろう❣と言ってくれたのがとても嬉しかったです。何らかの動きをしていきたいなと思います。
　今、最初からの契約で川崎重工シンキと言う会社が管理しているとのこと。外来種だらけになってしまう前に市民の手が入るような体制にしたいなと思っています。
　これからも見守っていただけると嬉しいです。

- 次に工場棟の見学に希望者で行ってきました。様々な展示物ができています。子どもたちは全く飽きることがありません。



新環境クリーンセンター工場棟の 5 階からは、天気が良ければ富士山と田子の浦湾がぐるりと一望できます。
　見学を現在受付ています。希望者が多ければ、再度、富士市のごみを考える会で新環境クリーンセンター工場棟見学を企画してもよいと思っております。ご希望の方はメールまたは、お電話をください。

- 今回の事業は、ふじさんネットワーク静岡県自然保護課から 7 万円の補助をいただいて行いました。紙芝居は、富士市多文化男女共同参画課きらり交流会議から 2 万円の補助をいただき作成しました。ふじさんエコトピアに展示しております。

- 新環境クリーンセンターふじさんエコトピアは、市民が活動する場です。活動しなければ、閑散としたただの展示場です。皆様のご協力が必要です。工場棟の見学案内、ビオトープの草取り、生ごみたい肥化の畑を耕し野菜を受けてみようという方、様々なボランティアを募集しています。小野までご連絡ください。また、声掛けお願いします。

ニュース　昭和21年11月15日 第3種郵便物認可　第22305号　(2)

10月20日富士ニュースに掲載されました。

ビオトープの役割伝え

常葉大の山田名誉教授が講演

NPO法人富士市のごみを考える会は18日、新環境クリーンセンターオープン記念講演会「ビオトープってなに？～ふじのふもとのカエルの池を歩こう～」を同センター循環啓発棟ふじさんエコトピアで開いた。

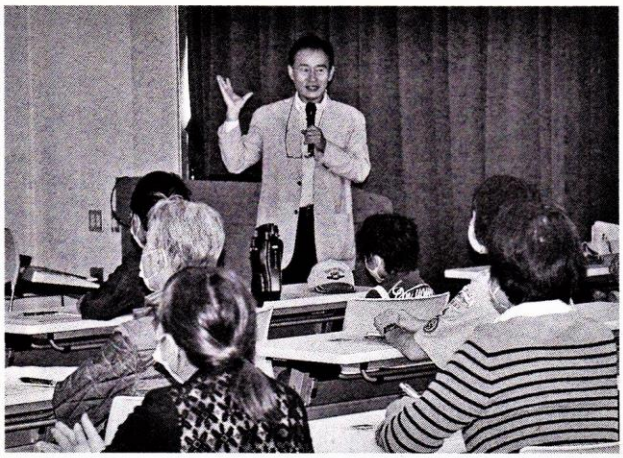
同センター敷地内のビオトープを監修した常葉大名誉教授でふじさんネットワーク副会長の山田辰美さんが講師を務め、県内各地の整備例を紹介しながらビオトープの役割を説明。同センター内のビオトープについては、〝大淵らしさ〟にこだわり、センター建設の際に発生した土や砂利、石を利用して整備をしたことなどを紹介した。

山田さんはコンクリート張りの水路に丸太製の簡易止水工や魚道を設置したビオトープの整備例などを紹介。「整備前には見られなかったナマズやヌマチチブ、ウナギなどの生物が生息するようになった。大々的な整備ではなくても、知恵と工夫を凝らせば生き物のすむ場所を取り戻せる」と伝えた。

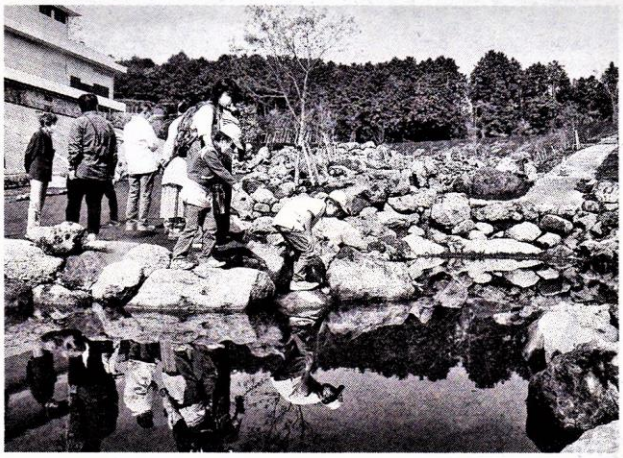
同センター内のビオトープは、周辺に生息する貴重種の▽モリアオガエル▽オオタカ▽ヒガシニホントカゲ▽オカダトカゲなどの保全のため、湧水を利用した水辺環境と森林、草地、荒地を設置。楽しみながら自然と触れ合える要素もビオトープの大切な役割だと言い、「つづら折りの園路や築山の山頂に至る散策路など、多彩な動植物や景色を楽しめるような工夫が施されている」と伝えた。

樹木が成長し、ビオトープが緑に包まれるには5年以上の年月が必要であることから、「外来植物が入ってきて植生が乱れてしまう可能性もあるので、しっかりと人間の手で管理していく必要がある。多くの方が訪れ、地域全体で楽しみ、守っていくような森になれば」と期待を込めた。

講演の後には、山田さんの案内で実際にビオトープを散策した。同NPO法人のメンバーによる紙芝居「ふじさんとごみとわたし」の上演も繰り広げた。



県内のビオトープの整備例を紹介する山田さん



センター内のビオトープを見学